

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	1年生 第1、2、3期	◎川上智志、瀬谷智美、大坂真理子	
講義区分	授業科目名		
基礎分野	総合基礎①		8 単位 120 時間

## ◆社会福祉(科目担当者:川上)

<p><b>【科目概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復師として、理解しておかなければならない基礎的な社会保険の仕組みを理解する。</li> <li>・公的年金制度、雇用保険制度、労災補償制度、生活困窮者自立支援制度の理解を深め、必要に応じて活用できる能力を育成する。</li> <li>・事例課題を用いて、具体的な制度活用方法や活用するための要件の理解を深める。</li> </ul>
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国のセーフティーネットについて、その種類と制度の概要を把握する。</li> <li>・社会保険制度について、患者に説明できる能力を身に付けると共に、必要に応じて自らが活用できる能力を育成する。</li> </ul>
<p><b>【授業外における学習方法】</b></p>
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験にて評価し、100点満点中60点以上で合格とする。</li> <li>・単位取得に満たない生徒には、課題提出や追再試験を実施する。</li> </ul>
<p><b>【使用教材】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・单元ごとにプリントを配布</li> </ul>
<p><b>【その他】</b></p>

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	わが国における社会保険制度の概要①	講義
2	わが国における社会保険制度の概要②	講義
3	生活困窮者自立支援制度①	講義
4	生活困窮者自立支援制度②	講義
5	生活困窮者自立支援制度③	講義
6	公的年金制度①	講義
7	公的年金制度②	講義
8	公的年金制度③	講義
9	公的年金制度④	講義
10	医療保険制度の概要①	講義
11	医療保険制度の概要②	講義
12	医療保険制度の概要③	講義
13	医療保険制度の概要④	講義
14	雇用保険制度①	講義
15	雇用保険制度②	講義
16	雇用保険制度③	講義
17	雇用保険制度③	講義
18	労災補償制度①	講義
19	労災補償制度②	講義
20	労災補償制度③	講義
21	まとめ・復習	講義
22	まとめ・復習	講義

◆生物（科目担当者：大坂）

【科目概要】

- ・人体の構造や機能についての基本事項の確認を行う。
- ・生物学の基礎知識をもとに生理学・解剖学等の専門科目への導入を行う。
- ・過去の国家試験問題のうち、講義で得られた知識内で解けるものにチャレンジする。

【到達目標】

- ・高校課程の生物基礎を復習し、基礎固めをすることによって、専門科目の学習をスムーズに行えるように
- ・生命に対して畏敬の念を抱き、健康を支える仕事に就くことに誇りをもてるよう指導する。

【授業外における学習方法】

- ・高校で学んだ生物基礎の教科書を見直す。
- ・人体、健康に関するニュースに興味を持ち、積極的に調べてみる。
- ・講義で配布した資料を復習する。

【成績評価方法】

- ・定期試験【70%】、講義後提出の課題【20%】、講義内小テスト【10%】にて総合判定を行う。
- ・総合判定は100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
- ・単位取得に満たない生徒（60点未満）には、課題等の提出、再試験を実施する。

【使用教材】

フォトサイエンス生物図録 数研出版

【その他】

- ・授業は單元ごとにプリントを配布し、スライドを用いた講義形式で進めていく。
- ・スライドで学習した重要用語を穴埋め式プリントに書き込み、毎回提出する。
- ・授業後、その日の授業内容のまとめプリントを提出する。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	生体を構成する物質 p20～p23	講義
2	細胞の構造と構成成分 p24～p27、p30～p32、p42～p43	講義
3	細胞と遺伝子 p74～p75、p82～p83、p84～p85	講義
4	消化と吸収（1） （消化のしくみ・酵素反応のしくみ） p48～p51、p172	講義
5	消化と吸収（2） （吸収のしくみ・肝臓のはたらき・血液の組成導入） p169、p173	講義
6	血液の組成と機能（1） （赤血球のはたらき） p165、p167	講義
7	血液の組成と機能（2） （血液循環） p166	講義
8	血液の組成と機能（3） （免疫） p174～p185	講義
9	血液の組成と機能（4） （血液凝固・恒常性導入） p168	講義
10	恒常性の維持（1） （腎臓の構造と機能） p170～p171	講義
11	恒常性の維持（2） （ホルモン） p160～p164	講義
12	恒常性の維持（3） （自律神経） p158～p159	講義
13	神経系（生理学導入） p193～p198	講義
14	まとめ（試験対策）	講義
15	試験解説	講義

◆保健体育（科目担当者：瀬谷）

**【科目概要】**

アダプテッド・スポーツとは「身体に障害のある人などの特徴に合わせて誰でもできるようにルールや用具を改変、あるいは新たに考案して行うスポーツ活動」を指す。この考え方は多様性が叫ばれる昨今、重要な考え方であるといえる。本授業では、アダプテッド・スポーツを通して、障がいを持つ方の障がい特性や配慮について学んでいく。

**【到達目標】**

- ・ 障がいの個人モデル、社会モデルについて学び、障害の捉え方について理解する。
- ・ 3障がいの障がい特性を説明することができる。
- ・ 障がい特性を踏まえた運動プログラムの組み立てができる。

**【授業外における学習方法】**

**【成績評価方法】**

授業内試験及び授業内課題の成績を踏まえて評価を行う。

**【使用教材】**

毎授業資料を配布。

**【その他】**

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	障がいの捉え方	講義
2	障がいと制度	講義
3	各障がいについて①	講義
4	各障がいについて②	講義
5	各障がいについて③	講義
6	各障がいについて④	講義
7	各障がいについて⑤	講義
8	各障がいについて⑥	講義
9	障がいとスポーツ①	講義
10	障がいとスポーツ②	講義
11	障がいとスポーツ③	講義
12	パラスポーツ①	講義
13	パラスポーツ②	講義
14	パラスポーツ③	講義
15	まとめ	講義
16	子どもの運動発達と遊び①	講義
17	子どもの運動発達と遊び②	講義
18	アダプテッド・スポーツを理解する	講義
19	アダプテッド・スポーツを考える	講義
20	アダプテッド・スポーツをつくる①	講義
21	アダプテッド・スポーツをつくる②	講義
22	アダプテッド・スポーツをつくる③	講義
23	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	1年生 第1期、2期	西 健喜	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	解剖学①		2 単位 60 時間

## 【科目概要】

解剖学は医療系の基盤となる学問である。本講義では解剖学の中でも運動器系「骨格系および筋系」についての講義を行う。主に1学期に骨格系、2学期に筋系について講義を行う。

- ・骨の構造の説明および骨の連結（特に関節）の分類と特徴を例をあげて説明を行う。
- ・全身の骨およびその部位について図を用いて説明する。また関節およびその他の特徴について説明する。
- ・全身の筋について、図を用いて名称、付着部（起始停止）、関節への作用および支配神経について説明する。

※骨の部位名（1学期内容）は筋の付着部（2学期内容）において必須であるため、1学期の内容は1学期中に覚え、理解することを望む。また解剖学（筋骨格系）は柔整理論(骨折の転位など)および臨床系科目など他の科目の理解に強く関連するため、講義ごと・学期内での理解が望まれる。

2学期内容（筋系）では、名称に加えて付着部位（起始・停止）や神経も覚えるため、1学期よりも努力を要する。

## 【到達目標】

骨格系においては主に骨名称および部位名称を理解し、図を用いて説明できること。筋においては筋名称、付着部位（起始・停止）、支配神経および作用を理解し、図を用いて説明できることを目標とする。

各項における具体的目標を下記に示す。

- ・骨の基本的構造について理解し、骨の連結（特に関節）についての分類と特徴を説明できる。
- ・骨の部位について、名称および特徴を図（または模型）を用いて説明できる。
- ・筋については、主に筋名称、筋の付着部（起始・停止）の名称、支配神経および関節への作用を図（または模型等）を用いて説明できる。

## 【授業外における学習方法】

- ・各講義ごとにプリント（要点穴埋め形式および筋骨格図）を配布する。プリントは教科書に沿って作成しており、教科書内容に沿って講義を進める。より理解を深めるためには教科書を読むよう心がけてほしい。
- ・各範囲の重要事項（講義内容まとめ）をプリント末尾に問題形式にて記載する。解剖学（筋骨）は名称や用語などの記憶する内容が多く、講義中だけでは全てを覚えるのは難しい。各講義30分程度の復習が必須であるため、復習の参考にしていきたい。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験70%、講義内試験20%、授業態度10%の総合判定を行う。
- ・授業態度10%は遅刻や居眠り、無関係な私語および無関係な電子機器操作などの消極的かつ不適切な授業態度について減算方式でおこなう。
- ・総合判定は100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
- ・合格点に満たない(60点未満)生徒には再試験および、課題等の提出を求める場合がある。

## 【使用教材】

- ・配布プリント
- 教科書：解剖学 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版  
参考書：ネッター解剖学アトラス、プロメテウス解剖学アトラス

## 【その他】

- ・講義内容は進捗状況で前後する場合がある。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	オリエンテーション・解剖学総論(p1～2)	講義
2	骨の役割、性状、構造(p21～)	講義
3	骨の発生と成長、連結、関節(p25～)	講義
4	脊柱(頸椎・胸椎・腰椎・仙骨)(p28～)	講義
5	胸郭(胸骨、肋骨)、上肢骨、肩甲骨、鎖骨(p33～)	講義
6	1学期 前半範囲復習(p1～2、p21～33)	講義
7	1学期前半 まとめ および 確認演習	講義
8	上腕骨、橈骨、尺骨、手の骨、関節(p38～)	講義
9	下肢骨、寛骨、大腿骨(p47～)	講義
10	下腿骨、足部の骨、下肢の関節(p52～)	講義
11	脳頭蓋、顔面頭蓋(p59～)	講義
12	頭蓋冠・底・側面・泉門、関節(p64～)	講義
13	骨 後半範囲復習(p38～p69)	講義
14	全身の関節(部位・形状・構成骨)復習	講義
15	定期テスト解説および復習	講義
16	筋総論、表情筋、咀嚼筋、頸部の筋(p70～)	講義
17	浅・深胸筋・横隔膜・腹筋(p81～)	講義
18	浅背筋・深背筋・脊柱起立筋(p88～)	講義
19	上肢帯・上腕屈筋・上腕伸筋(p92～)	講義
20	前腕屈筋(p97～)	講義
21	前腕伸筋(p100～)	講義
22	2学期 前半範囲復習(p70～p102)	講義
23	2学期前半範囲 まとめ および 確認演習	講義
24	手部の筋・内寛骨筋(p103～)	講義
25	外寛骨筋・大腿伸筋(p108～)	講義
26	大腿内転筋・屈筋・下腿伸筋(p112～)	講義
27	下腿腓骨筋・屈筋(p114～)	講義
28	2学期 後半範囲復習(p70～p122)	講義
29	筋・骨格 総まとめ	講義
30	定期テスト解説および復習	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 昼間部(午前)
開講年度 2026年度	履修課程 1年生 第1期、2期	担当教員 松川 睦	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 解剖学②		2 単位 60 時間

<p><b>【科目概要】</b></p> <p>循環器系（脈管系）・内臓系（消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系）の各構造をその機能（役割）と関連付けて述べるができること。</p>
<p><b>【到達目標】</b></p> <p>人体の構造（何が、どこに、どの様に、どんな形で存在するのか）を理解すること。 各構造や部位の名称および必要な専門用語（医学用語）を取得し、使用することができること。</p>
<p><b>【授業外における学習方法】</b></p> <p>基本的には授業でプリントを配布して記述する。 これらの教材を利用して適宜、自学自習により機能的理解を深めてほしい。</p>
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <p>定期試験にて評価する。 100点満点中60点以上を合格とする。</p>
<p><b>【使用教材】</b></p> <p>授業でプリントを配布する。</p>
<p><b>【その他】</b></p>

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	解剖学総論 P.1～3	講義
2	細胞 P.3～8	講義
3	組織 P.8～14	講義
4	発生・人体の区分 P.14～20	講義
5	脈管総論 P.123～126	講義
6	心臓 P.127～133	講義
7	動脈系① P.133～137	講義
8	動脈系② P.137～139	講義
9	動脈系③ P.140～145	講義
10	静脈系① P.145～148	講義
11	静脈系②・胎児循環 P.148～152	講義
12	リンパ系① P.152～154	講義
13	リンパ系② P.154～156	講義
14	消化器系① P.157～163	講義
15	試験解説	講義
16	消化器系② P.163～167	講義
17	消化器系③ P.167～171	講義
18	消化器系④ P.171～177	講義
19	呼吸器系① P.177～179	講義
20	呼吸器系② P.180～182	講義
21	呼吸器系③ P.182～186	講義
22	泌尿器系① P.186～190	講義
23	泌尿器系② P.190～192	講義
24	生殖器系① P.192～197	講義
25	生殖器系② P.197～200	講義
26	生殖器系③ P.200～205	講義
27	内分泌系① P.207～210	講義
28	内分泌系② P.210～212	講義
29	内分泌系③ P.212～215	講義
30	試験解説	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	1年生 第1期、2期	水村和枝	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	生理学①		2 単位 60 時間

【科目概要】 解剖学による構造の理解の上に生理学による機能の理解を進めるため、授業の順番は教科書とは変えて行います。しかし、それぞれの項目の内容は教科書に沿って行います。(各回ごとにシラバスに掲載しています)

【到達目標】 私たちはいろいろなものを食べても体の組成が大きく変化しないし、また、激しく運動しても体温が上がりすぎたりしない。これは生体にとって適切な状態を保つためにいろいろな臓器が相互に関係しあって働いているおかげです。各臓器のダイナミックな働き、協力関係を理解するのが目標です。

【授業外における学習方法】 教科書が難しいと感じる人は、'みるよむわかる生理学 ヒトの体はこんなにすごい'(岡田隆夫著、医学書院)などを読むと生理学に親しみが持てるようになるでしょう。また、もっと詳しく知りたい人は、標準生理学(小澤澗司、福田康一郎監修、医学書院)、ギャノン生理学 第26版(岡田泰伸、佐久間康夫、岡村康司監訳、丸善出版)が、かなり難しいですが参考になると思います。

#### 【成績評価方法】

毎回その日の授業の内容について小テストを行います。成績は期末試験の成績(70点)と出席点(小テストの合計で評価します。合計点が60点以上あれば合格となります)。

【使用教材】 教科書は'生理学改訂第4版'(彼末一之編集、南江堂)を使います。授業は基本的にスライドを使って進めます。スライドには、授業内容を理解しやすくするために、教科書にない図も使います。ですから、スライドの図は資料として毎回配布します。配布資料はきちんと綴じて、復習に使ってください。高校時代と違って非常にたくさんのことを学びますから、しっかり復習してついてきてください。

#### 【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	生理学とは？勉強の仕方、参考書、細胞の形態と機能、転写と翻訳、染色体と遺伝	講義
2	細胞内小器官(補足)、組織、器官、生体の恒常性、生体の調節系(フィードバック)、体液とその恒常性の維持、物質の移動	講義
3	膜を介する物質の移動(浸透、浸透圧と細胞、能動輸送、エンドサイトーシス、エクソサイトーシス)、血液の成分と働き	講義
4	止血、血液凝固、繊維素溶解、血液型(AB型、Rh型)、造血幹細胞から各血球への分化	講義
5	免疫I(免疫器官(骨髄、胸腺、脾臓、リンパ節)、抗原、免疫担当細胞の働き、貪食と殺菌のメカニズム、獲得免疫①(細胞性免疫))	講義
6	免疫II(獲得免疫(液性免疫)、免疫記憶)。循環I(循環の働き、心臓の構造(部屋、弁、刺激伝導系)、心筋の構造、心筋の活動電位と収縮)	講義
7	循環II(心臓の興奮の発生と伝達、心電図、心周期、2つの循環系(体循環と肺循環)血管系の構造)	講義
8	循環III(大動脈の特徴、血圧の測定、細動脈の特徴、血流分布の調節、血流量)の調節、毛細血管における血流)	講義
9	循環IV(毛細血管床における限外濾過、静脈系、静脈灌流へ影響するもの(筋ポンプなど)、重力)	講義
10	循環V(短期的動脈圧調節(圧受容器反射)、心収縮力調節の特徴、長期的動脈圧調節)、呼吸I(呼吸の役割、)	講義
11	呼吸II(呼吸運動、呼吸量と肺容量、呼吸のための仕事、表面張力)	講義
12	呼吸III(肺におけるガス交換、酸素の運搬、酸素解離曲線、炭酸ガスの運搬、呼吸リズムの生成、呼吸の調節。)	講義
13	呼吸調節(酸素の運搬、酸素解離曲線、炭酸ガスの運搬、呼吸リズムの生成、反射性呼吸調節)	講義
14	1学期の振り返り	講義
15	期末試験の振り返り	講義
16	栄養素とその消化・吸収(デンプン、タンパク質と脂質の構造と分解産物、消化器系全体の構造、消化管・消化管壁の構造)	講義
17	消化II(消化管運動、消化管機能の調節、食物の流れの時間経過、口腔における消化)	講義
18	消化III(嚥下、胃における消化、小腸における消化、膵臓の働き、胆汁、肝臓の働き、直腸への移送)、	講義
19	消化IV(排便、糖質の消化と吸収、その調節、タンパク質の消化と吸収、その調節)	講義
20	消化V(各種ホルモンの分泌様式、脂質の消化と吸収、)	講義
21	消化VI(リポタンパク質)、エネルギー代謝(ATP産生機構、糖質の代謝、糖新生)	講義
22	エネルギー代謝II(呼吸商、種々のエネルギー代謝量)、体温と体温調節(体温の変動、熱産生、褐色脂肪組織委、熱放散の物理的仕組みI 伝導)	講義
23	体温調節II(熱放散(伝導、放散、蒸散、発汗、精神性発汗))	講義
24	体温調節III(体温調節中枢、影響を与える因子、発熱、気候馴化)	講義
25	尿の生成と排泄I(尿の役割、腎臓の機能的構造、糸球体における濾過、尿管での再吸収と分泌I)	講義
26	尿の生成と排泄II(尿管における再吸収と分泌—水、Na <sup>+</sup> 、Cl <sup>-</sup> 他、クリアランスGFR,RPF、腎血流の調節、)	講義
27	尿の生成と排泄II(腎における体液量と電解質の調節、酸塩基平衡の腎性代償、レニン—アンジオテンシン—アルドステロン系、バソプレッシン(抗利尿ホルモン)による水の調節)	講義
28	腎臓の働きのみとめ、排尿の神経機構	講義
29	2学期の振り返り	講義
30	試験結果の振り返り	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	1年生 第1期	川上智志	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	職業倫理		1 単位 15 時間

## 【科目概要】

医療人としての質を確保するため、医療従事者の医療倫理に関して、医療における従来の倫理観から現代的倫理観への経緯と柔道整復師としての基本的倫理観の理解する。また、柔道整復師として日常の業務で遭遇するさまざまな患者対応について、ケース・スタディを用いて生徒間の意見共有をはかりながら学習を展開していく。

## 【到達目標】

ケース・スタディを通して、他者と協力して課題に取り組む力や主的に考え、行動する力を身に付ける。医療従事者としての職業倫理を適切に把握し、柔道整復師としての業務に携わる際に、適切な判断ができるようになる。

## 【授業外における学習方法】

授業での学習内容の復習を徹底する。

## 【成績評価方法】

各授業内で実施する課題により評価する。

## 【使用教材】

社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 全国柔道整復学校協会 監修 (医歯薬出版)  
配布プリント

## 【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	職業倫理・医療倫理、患者の権利	講義
2	個人情報保護、医療の安全(リスクマネジメント)	講義
3	医療の安全(医療事故と医療過誤)	講義
4	ケース・スタディ	講義
5	ケース・スタディ	講義
6	ケース・スタディ	講義
7	ケース・スタディ	講義
8	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	1年生 第1.2期	紺野 直能	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	柔道①		2 単位 60 時間

**【科目概要】** 武道は武技、武術から発生した我が国伝統の文化であることから、柔道によって日本文化を知ること。また、相手の動きに応じて基本動作や基本となる技を身に付け、相手と攻防することによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。武道に積極的に取り組むことを通じて、武道の伝統的な考えを理解し、相手を尊重して稽古や試合ができるようにする。

**【到達目標】**  
 柔道の基本動作と対人技能の基礎を確実に身につけ、それらを用いた攻防ができるようなレベルに達し、礼法、受身、投技、固技の理合を理解し、乱取稽古ができるようにする。  
 柔道特有の動きから人間の身体活動を学び柔道整復術へと展開する。

**【成績評価方法】**  
 出席回数  
 (各学期にて3回以上欠席は試験の受験資格を認めない。また受験後の場合は実技点数を含まない。)  
 授業準備、授業意欲・態度、実技試験、(出席回数以外で実技試験が出来ない学生はレポート)にて評価する。  
 授業意欲、態度50点、実技試験(レポート)50点の合計100点

**【使用教材】**

**【その他】**  
 講義は各自の柔道衣を着用して受講すること。

【 内容・日程 】		
回	内容	備考
1	柔道整復師と講道館柔道、柔道授業の目的	実技
2	柔道衣の着方、礼法、基本動作(姿勢、組み方、進退動作、体捌き、崩し)	実技
3	柔道衣の着方、礼法、基本動作(姿勢、組み方、進退動作、体捌き、崩し)	実技
4	受身(後受身、前受身、横受身、)	実技
5	受身(後受身、前受身、横受身、前回り受身)	実技
6	受身(後受身、前受身、横受身、前回り受身)	実技
7	立技 足技(膝車・出足払・送足払)打込練習・約束稽古	実技
8	立技 腰技(大腰・釣込腰・払腰)打込練習・約束稽古	実技
9	立技 手技(体落・一本背負投・背負投)打込練習・約束稽古	実技
10	立技 足技、腰技、手技の移動打込、投込	実技
11	立技 足技、腰技、手技の移動打込、投込	実技
12	立技 足技、腰技、手技の移動打込、約束稽古	実技
13	立技 足技、腰技、手技の移動打込、約束稽古	実技
14	立技の乱取り稽古	実技
15	立技の乱取り稽古	実技
16	立技の復習	実技
17	立技 打込、移動打込、投込	実技
18	固技 抑込技(袈裟固、横四方固、上四方固)	実技
19	固技 抑込技(袈裟固、横四方固、上四方固)	実技
20	礼法、受身、基本動作、打込、投込、審判規定、立技、固技の乱取り稽古	実技
21	礼法、受身、基本動作、打込、投込、審判規定、立技、固技の乱取り稽古	実技
22	礼法、受身、基本動作、打込、投込、審判規定、立技、固技の乱取り稽古	実技
23	固技 抑込技(袈裟固、横四方固、上四方固)、絞技(裸絞、送襟絞、片羽絞、十字絞)	実技
24	固技 抑込技(袈裟固、横四方固、上四方固)、関節技(腕緘・腕挫十字固)	実技
25	固技の乱取稽古	実技
26	固技の乱取稽古	実技
27	立技、固技の乱取稽古	実技
28	立技、固技の乱取稽古	実技
29	総合乱取稽古	実技
30	柔道総復習	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	1年生 第1期	川上 智志	
講義区分	授業科目名		
専門分野	基礎柔道整復学①骨折総論		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

- ・骨の構造と機能を理解し、構造上の弱点と損傷の関係を系統的に考察する。
- ・骨折の発生機序と損傷形態との関係を解析する。
- ・各論に基礎となる骨折に関わる様々な分類について理解する。
- ・骨折の治癒過程および治癒に対する影響因子との関係を学習する。

## 【講義概要】

- ・骨折の分類を理解し説明できる。
- ・骨折の症状を理解することができる。
- ・骨折の合併症、後遺症を理解することができる。
- ・骨折の治癒機転を理解し説明できる。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験および講義への関心、意欲、取り組み方、講義内で実施する課題により総合的に評価する。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
- ・単位取得に満たない学生に対しては、補習の実施または、課題提出を実施した後に、追再試験を実施する。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編（改定第7版） 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	人体に加わる力について・損傷時に加わる力について P12～15	講義
2	骨の形態と機能・骨折の定義 P20～23	講義
3	骨の性状による分類 P23～24	講義
4	骨損傷の程度による分類 P24～25	講義
5	骨折線の方向・数による分類 P25～26	講義
6	骨折部と創部の交通の有無に分類・外力の働いた部位・働き方による分類 P26～29	講義
7	骨折の部位・経過による分類 P29～31	講義
8	骨折時の一般外傷症状 P31～32	講義
9	骨折時の一般外傷症状 P31～32	講義
10	骨折時の固有症状 P32～33	講義
11	骨折時の固有症状 P32～33	講義
12	骨折時の全身症状 P34	講義
13	骨折時の併発症 P34～35	講義
14	骨折時の併発症 P34～35	講義
15	骨折時の続発症 P35～36	講義
16	骨折時の続発症 P35～36	講義
17	骨折時の後遺症 P36～39	講義
18	骨折時の後遺症 P36～39	講義
19	小児骨折の特徴 P39～41	講義
20	小児骨折の特徴 P39～41	講義
21	高齢者骨折の特徴 P41～42	講義
22	高齢者骨折の特徴 P41～42	講義
23	骨折の癒合日数・骨折の治癒経過 P42～45	講義
24	骨折の予後 P45～46	講義
25	痛みの基礎 P16～19	講義
26	柔道整復・柔道整復師の沿革・柔道整復師の業務範囲と心得 P2～10	講義
27	まとめ・復習	講義
28	まとめ・復習	講義
29	まとめ・復習	講義
30	まとめ・復習	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 昼間部(午前)
開講年度 2026年度	履修課程 1年生 第1期	担当教員 有馬宏昌	
講義区分 専門分野	授業科目名 基礎柔道整復学②		1 単位 30 時間

<p><b>【科目概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎柔道整復学の脱臼総論と軟部組織損傷総論</li> </ul>
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復学を理解する上で重要な柔道整復学総論を解剖学的な知識を絡めて体系的に理解する。</li> <li>・脱臼、軟部組織の総論を学び、各論を学ぶ上での基礎固めを行う。</li> <li>・総論が実際の外傷とどのように関連しているかを学ぶことにより、臨床現場に活用できる知識を習得する。</li> </ul>
<p><b>【授業外における学習方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復理論の教科書の予習復習を基本とする</li> </ul>
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験にて評価する。</li> <li>・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。</li> <li>・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。</li> <li>・単位取得に満たない生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施する。</li> </ul>
<p><b>【使用教材】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復学 理論編 南江堂</li> </ul>
<p><b>【その他】</b></p>

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	関節の構造と機能	講義
2	関節部損傷の概要・関節部損傷の分類・鑑別診断を要する類症	講義
3	脱臼(定義と概要・発生機序・分類・症状・合併症・整復障害)	講義
4	脱臼(定義と概要・発生機序・分類・症状・合併症・整復障害)	講義
5	脱臼(定義と概要・発生機序・分類・症状・合併症・整復障害)	講義
6	関節構成組織損傷(靭帯・関節包の損傷・関節軟骨損傷・その他関節構成の損傷)	講義
7	関節構成組織損傷(靭帯・関節包の損傷・関節軟骨損傷・その他関節構成の損傷)	講義
8	筋の損傷(筋の構造と機能・概説・分類・症状・治癒機序・予後)	講義
9	筋の損傷(筋の構造と機能・概説・分類・症状・治癒機序・予後)	講義
10	腱の損傷(腱の構造と機能・概説・分類・症状・治癒機序)	講義
11	腱の損傷(腱の構造と機能・概説・分類・症状・治癒機序)	講義
12	末梢神経の損傷(神経の構造と機能・概説・分類・症状・治癒過程)	講義
13	末梢神経の損傷(神経の構造と機能・概説・分類・症状・治癒過程)	講義
14	総復習①	講義
15	総復習②	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	1年生 第1期	村越嵩紀	
講義区分	授業科目名		
専門分野	基礎柔道整復学③		1 単位 30 時間

## 【科目概要】

・柔道整復師は患者に施術行為を行うため、施術行為による効果やどのような現象が体の中で起こっているのかを理解して患者に説明する必要がある。人体の構造と機能を元に患者にわかりやすく伝えられるようになるために、基本的な事項を着実に習得してもらいたい。

## 【到達目標】

・1年次は柔道整復学の基礎総論と基礎医学(解剖学)を中心に学びを進める。そのため本講義では人体の構造と機能の観点から柔道整復学を理解し考察できる能力を身につける。また上級学年での柔道整復各論に速やかに移行できるように配慮しながら学習を進める。

## 【授業外における学習方法】

- ・事前学習(予習)として、身体の構造に興味をもち解剖学の教科書を見たり、人体模型等を観察する。
- ・事後学習(復習)として、演習や講義で実施した内容を復習しておくこと。

## 【成績評価方法】

・授業内試験、履修状況(授業への積極的な参加、グループワークでの発表など)で評価する。  
 ・総合評価は100点満点とし、60点以上で合格とする。  
 ・単位取得に満たない(60点未満)生徒には課題提出等をもとめる場合がある。  
 ・授業態度については、授業とは関係のない私語、電子機器の操作、無断の入退出など、不適切な授業態度がみられる者について10%の範囲内で減点法にて評価する。  
 ※授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。

## 【使用教材】

- ・配布資料
- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(理論編)」第7版 南江堂
- ・全国柔道整復学校協会監修「解剖学」第2版 医歯薬出版

## 【その他】

・演習形式と講義形式の2パターンで実施する。  
 ・1講義の欠席分を取り戻すのはとても大変なことです。欠席することの無いように体調管理には充分配慮する  
 ・授業で使用する模型等は大切に扱うこと。  
 ・授業時間内で理解できなかった箇所、疑問点はそのままにせず早めに解決すること。図書室などを利用し専門書にて理解度を深めてください。教員への質問は歓迎します。  
 ※授業の進度によって内容の変更・追加・削減、順序を入れ替えて行うことがある。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	オリエンテーション(授業の進め方・概要について) セルフストレッチ①	講義・演習
2	解剖学小テスト セルフストレッチ②	講義・演習
3	解剖学小テスト パートナーストレッチ①	講義・演習
4	解剖学小テスト パートナーストレッチ②	講義・演習
5	解剖学小テスト パートナーストレッチ③	講義・演習
6	解剖学小テスト 競技別ストレッチ①	講義・演習
7	解剖学小テスト 競技別ストレッチ②	講義・演習
8	解剖学小テスト 手技の基礎	講義・演習
9	解剖学小テスト 手技、下肢&体幹編①	講義・演習
10	解剖学小テスト 手技、下肢&体幹編②	講義・演習
11	解剖学小テスト 手技、上肢編①	講義・演習
12	解剖学小テスト 手技、上肢編②	講義・演習
13	総合復習	講義・演習
14	総合復習	講義・演習
15	手技、痛みの取り方編	講義・演習

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 昼間部(午前)
開講年度 2026年度	履修課程 1年生 第2期	担当教員 有馬宏昌	
講義区分 専門分野	授業科目名 基礎柔道整復学④		1 単位 30 時間

<p><b>【科目概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書に記載されている理論と臨床現場における処置等、理論に沿ってしっかりと技術習得並びに重要項目をしっかりと習得できるように指導</li> </ul>
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各部脱臼の病態・発生機序・症状等を理解する。</li> </ul>
<p><b>【授業外における学習方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>柔道整復理論の教科書にて予習、復習</li> </ul>
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験にて評価する。</li> <li>出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。</li> <li>定期試験は100点満点で評価し、60点以上で合格とする。</li> </ul>
<p><b>【使用教材】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>柔道整復学 理論編 南江堂</li> <li>柔道整復学 実技編 南江堂</li> </ul>
<p><b>【その他】</b></p>

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	鎖骨脱臼	講義
2	鎖骨脱臼	講義
3	肩関節脱臼	講義
4	肩関節脱臼	講義
5	肩関節脱臼	講義
6	肘関節脱臼	講義
7	肘関節脱臼	講義
8	手関節部の脱臼	講義
9	手関節部の脱臼	講義
10	手根中手関節の脱臼	講義
11	手根中手関節の脱臼	講義
12	中手指節関節、指節間関節の脱臼	講義
13	中手指節関節、指節間関節の脱臼	講義
14	復習	講義
15	試験解説	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程		
2026年度	1年生 第1期、2期	梅本 彰吾	
講義区分	授業科目名		
専門分野	基礎柔道整復学⑤ 治療法		2 単位 60 時間

<p><b>【科目概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療としての基本的診察の概説を学び、治療計画を作成する。</li> <li>・柔道整復師が行う治療法全般の基礎を理解し、個々の症例に応用できる治療計画を作成する能力を学ぶ。</li> </ul>
<p><b>【授業外における学習方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後の復習</li> </ul>
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験にて評価する。</li> <li>・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。</li> <li>・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査</li> <li>・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。</li> <li>・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。</li> <li>・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。</li> </ul>
<p><b>【使用教材】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業プリント主体</li> <li>・柔道整復学理論編</li> <li>・柔道整復学実技編</li> </ul>
<p><b>【その他】</b></p>

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	診察時の注意点・診察手順の概説	講義
2	診察時期の分類・治療計画の作成・施術録の取扱いと記載	講義
3	徒手整復施行時の配慮	講義
4	骨折の整復法	講義
5	脱臼の整復法・徒手整復後の確認と配慮	講義
6	軟部組織損傷の初期処置	講義
7	固定施行時の配慮	講義
8	固定後の配慮	講義
9	固定具	講義
10	概論～手技療法	講義
11	運動療法	講義
12	運動療法の種類	講義
13	実技	講義
14	実技	講義
15	試験解説	講義
16	物理療法（概論）	講義
17	寒冷療法	講義
18	伝導熱療法	講義
19	輻射熱療法・変換熱療法	講義
20	超音波療法	講義
21	光線療法	講義
22	電気療法	講義
23	電気療法	講義
24	牽引療法	講義
25	概論・日常生活動作、環境の指導管理	講義
26	住宅環境・就労・就学・スポーツ活動の指導管理	講義
27	実技	講義
28	実技	講義
29	総復習	講義
30	試験解説	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	1年生 第3期	川上 智志 有馬 宏昌 梅本 彰吾 瀧下 晃洋	
講義区分	授業科目名		
専門分野	基礎柔道整復特講		3 単位 90 時間

## 【科目概要】

- ・柔道整復師として必要となる頭部、体幹部、肩甲帯部、上腕部の損傷を学習し必要となる知識を習得する。
- ・1学年で習得した柔道整復学の内容を総合的、発展的に学習する。

## 【到達目標】

- ・各部の損傷に対して発生機序、症状、合併症、予後に関して詳細に理解し、損傷部位や程度等の判断や他損傷との鑑別ができるようにする。
- ・各部の損傷に対して整復や固定法など適切な、治療法を実践できるようにする。
- ・発展的、総合的な学習を通して1学年で学んだ柔道整復学の復習を行う。

## 【授業外における学習方法】

## 【成績評価方法】

頭部体幹骨折担当：川上 上腕骨折担当：有馬 肩甲帯、肋骨、胸骨骨折担当：瀧下

- ・定期試験および講義への関心、意欲、取り組み方、講義内で実施する課題により総合的に評価する。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
- ・単位取得に満たない学生に対しては、補習の実施または、課題提出を実施した後に、追再試験を実施する。

発展学習担当：梅本

治療計画表50点、実技試験50点とし、合計100点満点とする。

## 【使用教材】

- ・柔道整復学 理論編第7版 南江堂

## 【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	頭部、顔面部の骨折① P148～152	講義
2	頭部、顔面部の骨折② P148～152	講義
3	頰椎の骨折① P153～158	講義
4	頰椎の骨折② P153～158	講義
5	胸椎の骨折① P159～163	講義
6	胸椎の骨折② P159～163	講義
7	腰椎の骨折① P164～166	講義
8	腰椎の骨折② P164～166	講義
9	肋骨骨折	講義
10	胸骨骨折	講義
11	鎖骨骨折①	講義
12	鎖骨骨折②	講義
13	鎖骨骨折・実技	講義
14	肩甲骨骨折	講義
15	復習まとめ	講義
16	試験解説	講義
17	上腕骨近位端部骨折	講義
18	上腕骨近位端部骨折	講義
19	上腕骨近位端部骨折(結節上骨折)	講義
20	上腕骨近位端部骨折(結節上骨折)	講義
21	上腕骨近位端部骨折(結節下骨折)	講義
22	上腕骨近位端部骨折(結節下骨折)	講義
23	上腕骨骨幹部骨折	講義
24	上腕骨骨幹部骨折	講義
25	上腕骨遠位端部骨折	講義
26	上腕骨遠位端部骨折	講義
27	上腕骨遠位端部骨折(顆上骨折)	講義
28	上腕骨遠位端部骨折(外顆骨折)	講義
29	上腕骨遠位端部骨折(内側上顆骨折)	講義
30	復習	講義
31	試験解説	講義
32	上腕部骨折の総復習	講義
33	全体の授業内容の説明・患者来院から診察手順・医科への検査の必要性	講義
34	全体の授業内容の説明・患者来院から診察手順・医科への検査の必要性	講義
35	推測した負傷部位及び負傷名の確定と整復及び固定の必要性の判断と実施及び急性	講義
36	推測した負傷部位及び負傷名の確定と整復及び固定の必要性の判断と実施及び急性	講義
37	推測した負傷部位及び負傷名の確定と整復及び固定の必要性の判断と実施及び急性	講義
38	推測した負傷部位及び負傷名の確定と整復及び固定の必要性の判断と実施及び急性	講義
39	作成した治療計画に基づき、物理療法の体験及び実施	講義
40	作成した治療計画に基づき、物理療法の体験及び実施	講義
41	急性外傷に対する手技療法	講義
42	急性外傷に対する手技療法	講義
43	急性外傷に対する運動療法	講義
44	急性外傷に対する運動療法	講義
45	急性外傷に対する治療法(全体)	講義
46	急性外傷に対する治療法(全体)	講義
47	急性外傷の回復期までの治療計画 実技試験	講義
48	急性外傷の回復期までの治療計画 実技試験	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	1年生 第3期	瀧下晃洋	
講義区分	授業科目名		
専門分野	物理療法機器等の取り扱い		1 単位 15 時間

<p><b>【科目概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義では超音波画像観察装置（エコー）の基礎知識と基本操作を習得する</li> <li>・各部位の解剖学的構造を理解した上で、実際に装置を用いて組織を描出・観察する技術を養う</li> <li>・臨床で遭遇頻度の高い損傷のエコー像についても学び、動的評価の有用性を理解する</li> </ul>
<p><b>【到達目標】</b></p> <p>超音波エコー装置の基本的な操作方法を理解し、適切に扱うことができる          主要な運動器構造を理解したうえで、目的とする組織を安定してエコーで描出できる          運動器エコーに必要な基本的な解剖学的知識と観察のポイントを理解する</p>
<p><b>【授業外における学習方法】</b></p>
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況、授業態度、実技への取り組み状況等を総合的に評価する</li> </ul>
<p><b>【使用教材】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員が配布する資料および必要に応じて参考資料を使用する</li> </ul>
<p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻、早退は開始、終了の各30分以内までとする。原則1時間以上の授業参加を出席とする</li> <li>・自己申告のない遅刻、早退は欠席扱いとする</li> <li>・交通機関の遅延に伴う遅刻、早退は証明書の提出があればその限りでない</li> </ul>

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	超音波エコーの基礎	講義
2	前距腓靭帯の描出	講義
3	アキレス腱～下腿三頭筋の描出	講義
4	膝内側側副靭帯の描出	講義
5	肘内側側副靭帯の描出	講義
6	肩腱板筋の描出	講義
7	手関節周囲の描出	講義
8	総復習	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	1年生 第1期	荒井 一彦	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技① 固定法		1 単位 30 時間

## 【科目概要】

1年生で唯一の実技授業になります。柔道整復師にとって包帯は、武器になります。

みなさんが包帯を好きになってもらえたら幸いです。

## 【到達目標】

- ・ 固定の意味や役割の理解
- ・ 包帯の巻き方や巻き順、種類の理解
- ・ 各関節の巻き方の理解
- ・ 基本包帯の応用技術の習得

## 【授業外における学習方法】

## 【成績評価方法】

1学期：実技試験にて評価（基本包帯法）

- ・ 単位取得に満たない(不合格)生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施する。
- ・ 100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

出席回数

(3回以上欠席は試験の受験資格を認めない。試験後の場合は試験点数を含まない。)

## 【使用教材】

- ・ 柔道整復学 理論
- ・ 包帯固定学

## 【その他】

・ 接骨院で外傷を見てきた経験を活かして、臨症的な実技を伝えていき、外傷に強い柔道整復師を目指した授業を行う。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	固定法概論	実技
2	包帯の取り扱いや名称	実技
3	包帯巻き戻し	実技
4	関節の動き	実技
5	環行帯・螺旋帯・蛇行帯	実技
6	折転帯・亀甲帯	実技
7	麦穂帯	実技
8	手関節～肘関節までの基本包帯	実技
9	肩関節上行麦穂帯	実技
10	肩関節下行麦穂帯	実技
11	股関節上行麦穂帯	実技
12	股関節下行麦穂帯	実技
13	足関節麦穂帯	実技
14	足関節亀甲帯	実技
15	手袋帯	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	1年生 第2期	荒井 一彦	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技② 固定法		1 単位 30 時間

## 【科目概要】

1学期に学んだ基本包帯法を応用し、より実践的に学びましょう。

## 【到達目標】

- ・ 固定の意味や役割の理解
- ・ 包帯の巻き方や巻き順、種類の理解
- ・ 各関節の巻き方の理解
- ・ 基本包帯の応用技術の習得

## 【授業外における学習方法】

## 【成績評価方法】

2学期：基本包帯や応用を用いた実技試験にて評価

- ・ 100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
- ・ 単位取得に満たない(不合格)生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施する。

出席回数

(3回以上欠席は試験の受験資格を認めない。試験後の場合は試験点数を含まない。)

## 【使用教材】

- ・ 柔道整復学 理論
- ・ 包帯固定学

## 【教科書・参考書】

・ 接骨院で外傷を見てきた経験を活かして、臨床的な実技を伝え、外傷に強い柔道整復師の育成を目指す。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	ヴェルポー帯 右	実技
2	ヴェルポー帯 左	実技
3	ジュール帯 右	実技
4	ジュール帯 左	実技
5	デゾー1.2帯	実技
6	デゾー2.3帯	実技
7	デゾー1.2.3.4帯	実技
8	デゾー1.2.3.4帯	実技
9	膝関節テーピング	実技
10	足関節テーピング	実技
11	肘、肩関節テーピング	実技
12	手関節手指テーピング	実技
13	上半身ストレッチ	実技
14	下半身ストレッチ	実技
15	体幹ストレッチ	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	1年生 第2、3期	◎川上智志 大木正浩	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技③		2 単位 60 時間

<p><b>【科目概要】</b> 各軟部組織損傷の特徴から治療法までの知識を習得し、柔道整復師として臨床上必要な技術を学ぶ。</p>
<p><b>【到達目標】</b> 各軟部組織損傷の特徴から治療法までの知識を習得し、柔道整復師として臨床上必要な技術を学ぶ。</p>
<p><b>【授業外における学習方法】</b></p>
<p><b>【成績評価方法】</b> 2期【上肢・体幹軟損】 小テストは以下の計算式で学期評価点に反映する。50点×正解率（正解数／全問題数） 学期末評価点は、以下2つの合計点（合わせて最高100点） ①小テスト 50点 ②学期末テスト 60点</p> <hr/> <p>3期【下肢軟損】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験【100%】にて評価する。</li> <li>・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。</li> <li>・単位取得に満たない(不合格)生徒には、追再試験を実施する。</li> </ul>
<p><b>【使用教材】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復学(理論編)</li> <li>・柔道整復学(実技編)</li> </ul>
<p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接骨院での臨床経験を活かして、臨床に即した実技を行っていく。</li> </ul>

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	肩関節部の軟部組織損傷 P350-352	実技
2	" P350-352	実技
3	" P352-357	実技
4	肩部・上腕部の軟部組織損傷 P356-359	実技
5	" P359-361	実技
6	肘部の軟部組織損傷 P361-364	実技
7	前腕部の軟部組織損傷 P364-367	実技
8	" P367-370	実技
9	手関節部の軟部組織損傷 P370-376	実技
10	手部、手指部の軟部組織損傷 P76-379 / P337-339	実技
11	頭部、顔面部の軟部組織損傷 P338-341	実技
12	頸部の軟部組織損傷 P341-342	実技
13	胸・背部の軟部組織損傷 P342-345	実技
14	腰部の軟部組織損傷 P345-349	実技
15	テスト解説	実技
16	各論 軟部組織損傷 股関節の軟部組織損傷 P380～383	実技
17	各論 軟部組織損傷 大腿部の軟部組織損傷 P383～386	実技
18	各論 軟部組織損傷 大腿部の軟部組織損傷	実技
19	各論 軟部組織損傷 膝関節部の軟部組織損傷 P386～394	実技
20	各論 軟部組織損傷 膝関節部の軟部組織損傷 P386～394	実技
21	各論 軟部組織損傷 膝関節部の軟部組織損傷	実技
22	各論 軟部組織損傷 下腿部の軟部組織損傷 P394～396	実技
23	各論 軟部組織損傷 下腿部の軟部組織損傷	実技
24	各論 軟部組織損傷 足関節部の軟部組織損傷 P396～402	実技
25	各論 軟部組織損傷 足関節部の軟部組織損傷 P396～402	実技
26	各論 軟部組織損傷 足関節部の軟部組織損傷	実技
27	各論 軟部組織損傷 足・趾部の軟部組織損傷 P402～406	実技
28	各論 軟部組織損傷 足・趾部の軟部組織損傷	実技
29	下肢軟部組織の総復習	実技
30	定期試験解説	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	1年生 1. 2. 3期	紺野直能 ○井口良平 菊地正	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床実習①		1単位 45時間

【授業の到達目標およびテーマ】			
・ 柔道整復師が医療の担い手としての立場を認識し、実際に接骨院で行われる業務と柔道整復術を理解する。			
【講義概要】			
臨床実習を行うにあたり、まずは医療接遇（挨拶、声掛け、姿勢）の重要性を自覚する。そうして、患者を通し「柔道整復師として」「医療人として」「人間として」ルールを守り、人との接し方・関わり方を身に付ける。また、柔道整復師が通常の施術において、どのような事を行っているかを学ぶ。2年次の臨床実習を踏まえ、知識や技術を習得する。			
【成績評価方法】			
・ 評価の観点は、意欲態度（35％）付帯業務（10％）診察補助（40％）業務理解（15％）の4項目とする。			
・ 実習過程で学生の進捗状況を評価し、まとめる。			
【授業の特徴・形式】			
・ 実技形式を基本とする。			
【教科書・参考書】			
・ 包帯固定学 南江堂			
・ 柔道整復学 理論編 南江堂			
・ 柔道整復学 実技編 南江堂			
【 講義の内容・日程 】			
回	実施日	講義内容	備考
1	第1～4日目	院内清掃	実技
2		挨拶、声掛け	実技
3		医療面接の基礎	実技
4		患者評価(体表解剖、ROM評価等)	実技
5		診療補助①(物理療法の基礎、基本包帯法等)	実技
6		診療補助②(整復、固定補助)	実技
7		各疾患のQ&A	実技
8			実技
9			実技
10			実技
11			実技
12	第5日目	総まとめ	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	
開講年度	履修課程	担当教員	
2026 年度	1年生	菊地正 煙山奨也	
講義区分	授業科目名		
選択科目	スポーツ総合基礎①		1 単位 15 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

- ・スポーツ医科学の基本的知識、トレーニングおよびスポーツコンディショニングに関する基礎知識を習得する。

## 【講義概要】

- ・スポーツ医科学を基礎としたスポーツコンディショニング、トレーニングに関する知識について講義する。
- また、コーチやトレーナーの役割や制度の現状を理解し、スポーツ現場における活動のポイントについて解説する。

## 【成績評価方法】

- ・授業内実施の確認テスト、各授業における課題提出、授業態度などで総合判断します。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・リファレンスブック 公益財団法人日本スポーツ協会

【 講義の内容・日程 】			
回	講義内容	備考	担当教員
1	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系 体力のトレーニング	講義	煙山奨也
2	体力のトレーニング スキルトレーニン	講義	煙山奨也
3	スポーツに関する医学的知識(救急処置)	講義	煙山奨也
4	スポーツに関する医学的知識(スポーツバイオメカニクス) スポーツに関する医学的知識(運動器)	講義	煙山奨也
5	スポーツに関する医学的知識(運動器・循環器・呼吸器)	講義	煙山奨也
6	スポーツに関する医学的知識(ジュニア期・青壮年期・高齢期) スポーツに関する医学的知識(コンディショニング基礎)	講義	菊地正
7	スポーツに関連する医学的知識(コンディショニング応用) スポーツに関連する医学的知識(コンディショニング手法)	講義	菊地正
8	アンチドーピング	講義	菊地正

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	1年生	菊地正 煙山奨也 片岡沙織	
講義区分	授業科目名		
選択科目	スポーツ総合基礎②		1 単位 15 時間

<p><b>【授業の到達目標およびテーマ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・公認スポーツ指導者(グッドコーチ)に求められる医・科学的知見を理解し、スポーツに必要な解剖生理学、トレーニングやコンディショニングの知識を習得する。</li></ul>
<p><b>【講義概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・適切な指導体系、コミュニケーション能力を習得する。また、競技者の意欲や自主的、自発的な活動を促し、現場におけるコーチとしてスポーツ場面で の問題解決能力と指導法を身につけることを目標とする。</li></ul>
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・各授業における課題提出、発表、小テスト、授業態度などで総合判定します。</li></ul>
<p><b>【授業の特徴・形式】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・講義形式を基本とし、演習も取り入れて行う。</li></ul>
<p><b>【教科書・参考書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・リファレンスブック 公益財団法人日本スポーツ協会</li></ul>

【 講義の内容・日程 】			
回	講義内容	備考	担当教員
1	コーチングとは/コーチングに求められる役割	講義	菊地正
2	コーチに求められる知識とスキル コーチに求められる知識とスキル(演習)	講義 演習	菊地正
3	對他者力を磨こう/対自己力を学ぼう	講義	菊地正
4	時代をリードするコーチング/コーチング環境の特徴	講義	菊地正
5	時代をリードするコーチング(演習)/パフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング(演習)	演習	菊地正
6	スポーツの意義と価値/スポーツの価値を守るスポーツ権	講義	煙山奨也
7	スポーツの自治(ガバナンスとコンプライアンス) スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任・スポーツ仲裁	講義	煙山奨也
8	スポーツの自治(ガバナンスとコンプライアンス)	講義	煙山奨也
9	暴力・ハラスメントの根絶・スポーツのインテグリティ/スポーツ倫理	講義	煙山奨也
10	スポーツ組織のマネジメント スポーツ組織のマネジメント(演習)	講義 演習	煙山奨也
11	心のトレーニング	講義	煙山奨也
12	心のトレーニング(演習)	演習	煙山奨也
13	スポーツと栄養	講義	片岡沙織
14	障害者とスポーツ	講義	菊地正
15	障がい者とスポーツ(演習)	演習	菊地正